# Demail Animal Cology The Interest of the Cology The Colog of the Col

特集 臨床皮膚科でいま"できる"ことを提案する

第8回 スペシャリストに聞く!

## 過敏性皮膚疾患・ 脂漏性皮膚疾患 私たちは こう治療する

#### 総監修:伊從慶太

犬アトピー性皮膚炎・食物アレルギー:石田琳瑛・伊從慶太/猫の過敏性皮膚炎:長谷川剛拡・伊從慶太/ 犬の脂漏症:安川邦美・伊從慶太/犬の脂腺炎:河口祐一郎・伊從慶太/耳輪皮膚症:神宮司恵子・伊從慶太/ 壊死性遊走性紅斑:佐藤理文・伊從慶太/猫の痤瘡:宮坂 聡・伊從慶太

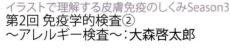
#### 好評連載

犬アトピー性皮膚炎の多面的攻略法!! 第3回 減感作療法: 島崎洋太郎

エキゾの皮膚病

第29回 カナリアの足環による絞扼:進藤祐介・田向健一

COLUMN 皮膚科学UP To DATE 第25回 海外英語文献を読み解く!:小林哲郎



#### 巻末特別企画

アポキル。錠ケースレポート 若齢で発症し、 犬アトピー性皮膚炎の 確定診断に苦慮した1例 福井祐一



#### 犬の脂漏症

### 病態•検查•診断

安川邦美 やすかわ動物クリニック

#### 病態

犬の脂漏症は獣医学領域では「過度の鱗屑形成、痂皮 形成、皮脂分泌などの多様な臨床所見を伴う角化異常を 特徴とする慢性皮膚疾患群」と認識され、角化異常に関 連した病態を示す」。臨床症状としては皮膚と被毛が 脂っぽくべたつき、触れると角質と皮脂の混ざり合った 付着物や不快臭を認める油性脂漏」、皮膚や被毛が乾燥 し、白から灰色の遊離性の鱗屑を伴う「乾性脂漏」に分 類される。さらに油性脂漏から病原体の増殖が関与し炎 症を伴った状態を「脂漏性皮膚炎」と分類し、これらの うちのどれか, あるいはこれらが混在して発症する場合 も少なくない。

脂漏症は、病因学的に「原発性(本態性)脂漏症」と 「続発性脂漏症」に分類される」。

「原発性(本態性)脂漏症」は遺伝的異常による表皮の 過剰増殖を特徴とし、多くは1歳齢以内に発症し、加齢 に伴い重症化するといわれている。好発犬種には「油性 脂漏」を示すコッカー・スパニエル、スプリンガー・ス パニエル, バセット・ハウンド, チャイニーズ・シャー ペイ、シー・ズーなどや、「乾性脂漏」を示すことが多い アイリッシュ・セッター, ミニチュア・シュナウザー. ドーベルマン・ピンシャー、ジャーマン・シェパード・ ドッグ、ダックスフンドなどが含まれる1.2)。他にはビー グルやラブラドール・レトリーバ―なども好発犬種とし て挙げられる。一般的な臨床症状は主に体幹で、多様な 鱗屑, 痂皮, 落屑, 蠟様皮膚, 被毛のべたつき, 不快臭 を示し、ときに耳垢分泌や蠟様の外耳炎を併発する。

「続発性脂漏症」はマラセチア、細菌、皮膚糸状菌、ニ キビダニ、センコウヒゼンダニなどの病原体の渦剰増殖 やアレルゲンや刺激物との接触による「外的要因」と, 甲状腺や性ホルモンなどの内分泌異常、不適切な食事や ビタミン不足などの栄養不良による「内的要因」に伴っ て発症する。病因学的には「続発性脂漏症」が一般的で, 「原発性(本態性)脂漏症」はまれであるが、臨床症状か らどちらかを鑑別することは困難である。

#### 検査および診断

「脂漏症」の臨床症状を示す犬を診察した場合は、まず 問診にて発症年齢、臨床経過、犬種などを詳細に聴取す る必要がある。その後の視診や一般身体検査で特徴的な 臨床症状が認められ、発症が1歳齢未満で前述した好発 犬種であれば原発性(本態性)脂漏症(図1)を疑う。 次に続発性脂漏症を除外するために血液検査、内分泌学 的検査, 皮膚押捺検査, 皮膚掻爬検査, 毛検査などを行 い、可能であれば皮膚生検による皮膚病理組織検査を実 施する。しかし、「原発性(本態性)脂漏症」は「続発性 脂漏症」に比べて非常に頻度が低いため、多くの症例は 「続発性脂漏症」を念頭に「外的要因」および「内的要 因」を調べて行く必要がある。

「外的要因」としては感染症における病原体の関与、ア レルギー反応におけるアレルゲンの関与、環境因子の関 与などが挙げられる(図2)。いずれにしても丁寧な問診 が必要で、発症年齢、痒みの程度や生活環境、食事内容 などを聴取する。次に一般的な皮膚科検査として皮膚押